

南信州ソーシャルキャピタル・フィールドスタディのプログラムの説明と運営メモ

名城大学・都市情報学部 福島 茂

1. 問題意識

- ソーシャル・キャピタル（SC）の蓄積の実態を把握してみよう。
- 構造的に理解してみよう。（基層条件・タイプ・異なる SC タイプ間の関係性）
- どうして、SC が継承・蓄積・発展されてきたかを考える。
- SC の継承・蓄積・発展において行政はどのような役割を果たしてきたか。
- SC の市民参画型まちづくりへの発現について考えてみよう。
- SC は「生活の質」にどのように結びついているのか。
- SC 論からみた「地育力」とは？

2. 仮説設定

- 地域社会に根づいていた「ムトス：自主自立」と「結い」が規定条件。

●維持発展のメカニズム

①自治会・公民館活動に代表される地域自治の枠組みが、伝統的な規範を維持につながる。

②「りんご並木」の物語とその愛着： 社会的信頼感と社会参画への規範を維持。

愛着・誇り：シンボル化・シンボル空間化→舞台

③地域の文化性と SC の発展：

A: 地域的文脈： 「隔離と交流」→「手作りの文化：外部刺激と独自熟成」

文化人を迎え入れ、楽しみ、習得する、自己発展させる伝統

（人形浄瑠璃、人形劇フェスタ、音楽祭、ツール・ド・ジャパン）

「小規模・独立した都市圏」→ネットワークの濃密性・交流発展

B: 地域文化人のネットワークと公民館活動を通じた地区との連動

（人形劇フェスタにおける本部と地区の関係）

C: 主体的企画装置と舞台装置としての伊那谷文化芸術祭

④多様な地区リーダー・地元リーダーと行政との重層的な協力関係：

A: 自治会・公民館活動： 公民館主事と市内の公民館主事 OB→住民との関係構築の在り方を熟知。
住民活動主体者としての市職員の存在。

B: SC のまちづくりへの参画機会創出者・支援者・SC 活用者としての行政

C: 地元産業経済界と行政（地域密着型行政）

⑤橋渡し型 SC の存在

行政・文化会館、キーパーソン、りんご並木ネットワーク、地域金融機関（信金）

3. 演習プログラムの狙いと運営メモ

3-1 フィールドスタディ1:公民館・自治会活動

●飯田の地域社会に出向くことにより、地縁型 SC の実態について確認調査を行なう。若い人や女性も参加しやすい公民館活動と伝統的なムラ・マチ社会を反映した自治会、新興住宅地の自治会など多様な地縁型 SC に触れ、互いにその実態・特徴を報告しあい、比較してみる。

●公民館・自治会は SC の維持・蓄積・発展にどのような働きをし、それはどのようなまちづくりに繋がっているのか調査・考察してみる。第 1 日目のゲストスピーカーによる講義内容（飯田の人・文化・社会、公民館活動と地域自治）を自ら再確認する機会とする。

●飯田市民によるまちづくりの基層を構成する規範・社会的信頼・地縁ネットワークについての理解を深める。

●自治会や公民館活動の経年的変化についても調査し、飯田の地域自治モデルの基礎を形成してきた自治会・公民館活動がどのように変化しつつあるかについても調査する。

*：初日に農家民泊を組み入れ、農家の方との交流を通じて飯田の人・ムラ・社会や地域自治に対する理解を深めてもよい。また、フィールドスタディ 2-3 の「体験型観光受け入れ態勢づくり」がどのようになされたかを聞く機会にしてもよい。

(ただし、初日に参加学生間の交流を深めるプログラムも必要なので、そのトレードオフをどう考えるか)

3-2 フィールドスタディ2: SC と文化・環境・まちづくりへの発現

ここでは、以下の 4 つの事例について、SC が文化・環境・まちづくりとして発現したかを調査し、考察する。

(1) FS2-1： りんご並木を取り巻く市民活動

- ①ゲストスピーカーによる講演：りんご並木を取り巻く市民活動
- ②りんご並木市民活動調査（関係者ヒアリング）

りんご並木の歴史とその維持継承の取り組み、りんご並木を「舞台」とする市民によるまちづくり、橋渡し型 SC としての「りんご並木ネットワーク」の内容とその役割・効果などについて調べる。また、りんご並木を中心としたまちづくりにおける市の果たした役割とは何かを考える。

(2) FS2-2： 人形劇フェスタと市民運営

- ①ゲストスピーカーによる講演：人形劇フェスタと市民運営
- ②人形劇フェスタ調査（関係者ヒアリング）

人形劇フェスタの市民運営の実態、成功要因と条件、継続を可能とした要因（SC を含む）は？

人形劇フェスタの継続による SC の蓄積・発展はあったのか？

地域文化人のネットワークと公民館活動を通じた地区との連動・連携は？

これらは、何を生み出そうとしているのか？

行政の役割は？

(3) FS2-3： 体験型観光と受入れ体制づくり

- ①ゲストスピーカーによる講演：体験型観光と受入れ体制づくり
- ②体験型観光受入れ体制づくり調査（関係者ヒアリング）

短期間で受け入れ農家を用意できた秘密は？（SCとの関係性は？）
受け入れ農家の自発的な改善運動が生まれた背景は？（SCとの関係性は？）
受け入れ態勢は、どう維持発展したのか？
行政の役割、南信州観光公社の役割は？

(4) FS-4： 地域ぐるみ環境 ISO 研究会の取り組み

①ゲストスピーカーによる講演：地域ぐるみ環境 ISO 研究会の取り組み

②地域ぐるみ環境 ISO 研究会調査（関係者ヒアリング）

企業の枠を越え、地域ぐるみで環境 ISO の取得に取り組もうとした訳
どのようにしてメンバー（企業数）を増やしながらか活動の幅を広げてきたのか
行政との連携、協力について

3-3 総合発表会： 飯田のソーシャルキャピタルとまちづくり

(1) グループ別発表

- りんご並木を取り巻く市民活動
- 人形劇フェスタと市民運営
- 体験型観光と受け入れ態勢づくり
- いいだ WAVE の取り組み

(2) パネルディスカッション

- 飯田のソーシャルキャピタルとは
- ソーシャルキャピタルを育むもの
- 地域文化創造・まちづくりへの発現
- 飯田の「生活の質」向上への貢献（飯田ライフ）